

だけ

Ó

じありま

の責任ではあてきました。

か 行

会議をつくるのは

加

する立

議をつくるために効果的

な役割を実践できます

「NPO」ワンポイント・アドバイス

~もっと良い会議をつくるコツ その5 いち参加者ができること(前編)~

うなずく

「ウンウン」とうなずくだけで、他の参加者の発言をさらに促していきます。ただし、 うわべだけ機械的なうなずきは逆効果。人の話を心から聴くことを心がけてください。

質問する

進行役が不慣れな場合、質問をすることでその場を一変させることができます。時間 配分が曖昧な時は「あの、質問ですが、この会議の終了時間は16時で良かったでしょ うか?」と。結論が見えない時は「あの、今日の結論は、 $\bigcirc\bigcirc$ を $\triangle\triangle$ にする。で良かっ たでしょうか?」といった感じです。どんな質問が前に進むかを考えてみるのも、楽し いですよ。

共通点を探す

意見が対立しだしたら、なんとか共通点を探しましょう。「AさんとBさんは一見 違う意見ですが、根底では××という共通点があります。」という感じです。また、 会議が始まる前に「ここに集まったメンバーには、××という共通点があります」と言っ てしまうのも良いです。

共通点を口にすると、不思議と共同作業や創発がしやすくなります。

相談希望の方は、 まちセンへ

まちづくりセンターでは、もっと具体的な「良い会議のつくりかた」 についての相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料:[IIHOE] 人と組織と地球のための国際研究所発行『NPOマネジメント』

センター長のつぶやき

8月26日、NPO法人せんだい・みやぎNPOセ ンター代表理事の加藤哲夫さんが亡くなられました。 61歳。まだまだ活躍しなくてはならない年齢でした。 加藤さんは、日本のNPO・NGO活動をリードし、 支えてきた偉大な方です。まちセンのようなNPOを 支援する活動をいち早く設立・実践してきました。「N POは弱い立場の人に手を差し伸べなければならない」 という理念のもと、自らも人としてどう生きどう死ぬ べきかを常に問い続けました。『本当』はどこにあるの かを観る姿勢を教わったと話す方も多くいます。

数年前仙台市で行われた『支援力!パワーアップ研 修』の時にお会いしたのが、初めで最後でした。三日 間の研修の席でも夜の飲み会でも、NPO運営につい て熱く語る姿を今でもはっきり覚えています。一言一 言が、私の心に深く入って来ました。今年まちセンで、 同じテーマの研修が行われました。実は当初、加藤さ んも講師として来られる予定でした。加藤さんに、ま ちセンを観ていただき直接ご指導いただけなかったこ とが残念でなりません。加藤さんが入院したのは、震

丸藤 競

災当日の3月11日。支援活動に生涯を捧げた加藤さ んにとって、これも運命なのでしょうか。自らの死を 悟った加藤さんは、お見舞いに来られた方に「あとを 託す」と語られていたそうです。

その加藤さんが『NPOマネジメント』に最後に書 いた言葉をご紹介します。原発問題を深く憂慮したう えでの言葉です。

「なすべき仕事はしてきたと思う。しかし、自責の念が 私を襲う。私こそが有責である。私はイノセントでは ありえない。」としたうえで、「『私が先んじて罪を負う』 という『私』の名乗りだけが、世界を人間の住むこと のできる場所に造り上げることができる。そして、世 界を人間の住むことのできる場所に造り上げるのは、 神の仕事ではなくて、人間の仕事なのである」

加藤さん、勝手にあとを託された者の一人になって もいいですか?

私はまだまだの人間です。これからもご指導お願い いたします。

最後になりましたが、ご冥福をお祈りいたします。

[8]